

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172901308), 法人名 (有限会社 旭川ケアサービス夢), 事業所名 (グループホーム夢 西ユニット), 所在地 (旭川市春光台4条9丁目4-3), 自己評価作成日 (H27年10月), 評価結果市町村受理日 (平成27年11月19日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな広い敷地に建ち、ホールは吹き抜けの構造とし陽光が自然と差し込む明るい環境の中で生活出来る様になっている。大浴場には大きな窓があり、裏庭の木々を眺めながら入浴出来る。居室には、トイレ、洗面台、ナースコールが設置されている。季節に合わせ、外気浴や近隣の公園まで散歩などに出掛け、日々過ごされています。四季折々の行事には、ご家族様、地域の方を交えた行事を行っており、入居者様やご家族様との交流を深めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2014\_022\_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172901308-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年10月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の福祉村の近くに位置し、1階に2ユニットが並列している事業所である。広いリビングは、吹き抜け構造の天窗から自然光が入り明るく、居室にはトイレや洗面台が設置されており、利用者は自宅から持参した慣れ親しんだ家具に囲まれ、まるで自分の家にいるように、おだやかな時間を過ごしている。浴室は2ヶ所あり、大きな窓がある温泉風の大浴場では、近隣の木々を眺めながら入浴でき、木の葉の色やさわやかな雲の流れで、四季の変化が感じられ、入浴日以外や個別の入浴を好む利用者には、個室が用意されている。敷地内には菜園や花壇があり、作物の成長や収穫は、利用者の喜びであり楽しみ事になっており、庭で収穫したいちごでジャムを作り、クレープにして茶話会で提供し好評であった。また定期的に開催している運営推進会議では、利用者の状況・事業所の取り組み・行事報告・ヒヤリハット・防災計画等話し合い、業務の充実を図っており、利用者家族の参加も多い。質の高いケアの実践と共に、利用者を持つ力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している、地域密着型事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	詰所、各ユニットホールに掲示し、職員全員が共有している。	運営法人の理念は、事務所やホールに掲示している。	法人の理念の他に、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念や、各ユニットの目標等を、全職員で検討し作成することを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し班長も行き、地域の方と交流している。町内の夏祭りや地域の行事に参加している。ボランティアの訪問など地域との交流をしている。	利用者と共に、鷹の巣福祉フェスティバルやきぼうまるしえなど地域行事に積極的に参加しており、近隣住民とは散歩時の挨拶等、様々な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者やケアマネジャーが相談に来られる方に対し、認知症への対応や介護サービス利用についての助言を行うなど。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、運営推進会議において入居者様状況や行事、取り組の報告をしている。事故報告書や経過報告書なども閲覧している。	運営推進会議では、行事予定と報告・ヒヤリハットなどを積極的に開示し、利用者家族からも前向きな意見が出されている。議事録も整備し家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区担当者とともに連絡を取り合い状況報告している。また包括支援センター、民生委員の方を運営推進会議に招き協力体制を得るようにしている。	行政とは、事業所の状況報告など連絡を密にするほか、消防署や地域包括支援センターなどの助言を得て、サービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしておらず、事故防止の為にセンサーを設置しており、職員が常に意識し安全に心掛けている。	全職員が身体拘束の弊害を認識しており、勉強会やミーティング等で具体的な行為について話している。万が一の災害時に備えて、非常口も施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会に参加し虐待についての正しい知識を学んでいる。介助方法、声かけの工夫など話し合いをし対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人を利用している方もいる。後見人に弁護士の方がついていいる事もあり解らない部分は連絡を取り合い理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、ホーム見学をして頂き、職員体制、料金などの説明をさせて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱も設置している。御家族からの要望があればユニット内で話し合い、取り組んだり推進会議等で意見を頂く機会を設けている。	玄関入り口に、意見箱を設置している。家族の来訪時には、積極的に話し合いの場を持っている。運営推進会議には多くの家族が参加しており、意見・要望は運営やケアに反映している。	利用者家族の、声に出せない希望・要望を把握するためにも、事業所独自の家族アンケートの実施を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告事項を簡潔に、検討事項に時間を割けるよう工夫し、職員の意見や提案をより反映できるよう取り組んでいる。	管理者はユニット会議や日常の業務を通じ、職員の意見や提案を聞く機会がある。	代表者及び管理者は、個人面談や人事考課で職員と個別に話をする機会を作り、今以上に職員個々の意見や意向を把握するよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内で資格取得のサポートやシフトの調整を行い、各自が向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的な参加を促し、職員の質の向上に努めている。内部研修も充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や系列グループホームの推進会議等に参加し、交流、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に限らず入居者の訴えに対して何を考えて何を言おうとしているのかを出来る限り聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人様と一緒に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面接時などにできるだけ詳しい話を伺い、安心してサービスを受けることができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にすると言う意識を持ち教え合ったり励まし合ったりしながら生活を共にし信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院での同行、状態の変化など事あるごとに連絡、相談を行いご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様、知人、友人の面会時にはゆっくり過ぎて頂くよう雰囲気作りにも心掛けている。またご家族様が同伴し墓参りなど馴染みの人との関係が途切れないように努めている。	食事の後片付けや菜園造り等で、利用者の生活歴や持てる力、興味や意向に応じて役割があるよう、場面作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座る位置等配慮している。視力、聴力の低下している方が増えているが職員が間に入り交流を楽しめるよう関わっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先にもお見舞いに行ったりご家族様に会った時には様子を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取ることで把握に努めている。家族にも意向など確認している。	家族から得た情報や本人の日頃の行動や表情、過去の生活歴を基に本人の思いや暮らし方の希望、要望を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソンとなる家族から生活歴を伺う事以外にホームで暮らしている中で知り得た本人の暮らしの一端を記録に残し職員全員で共有し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し行動や言葉、表情からチームとしてその人全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こまめにユニット会議を開催し課題とケアについて話し合っている。	利用者個々の食事・排泄・睡眠等の状況や、さらに家族の要望、医師・看護師の意見等を参考としながら、ユニット会議等を通じて介護計画を見直し、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員との関わりの様子や自ら発した言葉、行動を記録し職員間の申し送り等にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせ、その時の状況に合ったケアを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪や地域行事への参加。消防の協力を頂き、入居者様も避難訓練に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかり医に継続的にかかり信頼関係を築くよう努めている。往診や電話相談等医療と連携がとれる体制を取っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を利用し、職員同行で通院支援も行っている。医療情報は家族に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い状態変化等の場合は相談し受診の必要性の判断や助言を得ている。連絡の取れる体制になっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報交換を行い医療機関と情報を共有している。入院中は面会や病院と連絡を取り状況把握に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人様にとって、一番良い方法(環境)についてご家族様とチームで話し合っている。主治医と密に連絡を取り出来る限りの支援を行っている。	重度化や終末期の指針を策定し、事業所ができることを説明している。利用者や家族の意向について確認しており、関係者と方針を共有し事業所として、できるだけ支援をしている。		利用者が重度化した場合でも、事業所内で馴染みの人達に囲まれ、安心して過ごす事ができるように、救急救命・終末期・看取り等についての十分な研修と教育を、受けるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、救命講習やAEDの使用方法などを勉強会で学んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、年2回以上の避難訓練を行い、消防の方からも助言を得ている。	消防署参加のもと避難訓練を行っており、地域の人々や家族も参加している。隣接するグループホームとは、災害時には協力できる様に、協定書を交わしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重しさり気ない声掛け、言葉かけを心掛けている。	入浴やトイレ介助の際など、利用者を傷つけないように日頃から個人を尊重した言葉かけに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話の中で思いや希望を探ったり、一人ひとりが自分で決定できるような場面を提供できるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアに取り組み、起床や就寝など希望や体調に合わせた支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。通販などカタログから洋服を選び、注文し届くなどのおしゃれを楽しめるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れたミニトマト、枝豆などの利用や能力に合わせて、テーブル拭きなどを行っている。	調理専門職員の作る食事は、利用者の嗜好を反映しており、職員は食事介助をしながら、個々の嚥下・咀嚼・健康状態を観察している。食前には嚥下体操を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。おかゆ、刻み食など調理方法を個々に合わせるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせて声掛け、見守り、介助を行っている。義歯の定期的な洗浄等配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から個々の排泄状況を把握し声掛け、誘導を行っている。声の大きさ、周囲の状況に注意しプライドを傷つけないよう努めている。	しぐさや習慣から個々のパターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。各居室にはトイレが完備され、プライバシーも保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医や看護師に相談し、下剤の調整や乳製品の提供、運動などを取り入れ便秘の予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、月、木曜日を入浴日として大浴場で入浴しているが受診と重なったり本人の体調を考慮し、他の曜日に小浴で入浴する事もあり個々に沿った支援をしている。	週に2回は入浴が楽しめるよう、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。大浴場からは外の景色が見え、温度差に配慮し床暖房を採用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況を把握し体調や希望に応じて自由に休息して頂いている。日中、適度な活動を促し生活リズムを作ることで安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となって薬を管理し個々のファイルを作成しその中に薬剤表を入れ、職員はダブルチェック、指差し確認で服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意な事を把握しその方らしく過ごせる場面を作り出せるよう努めている。外出、行事等に参加する事で気分転換となるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には近隣の散歩、庭先や畑への水やり、日光浴などを行っている。その時の活動を写真に撮り、おたよりに載せたり、推進会議でも手に取って見て頂いている。	近隣は緑が多く、庭での外気浴や近くの公園までの散歩や地域行事の参加、また個々の希望に合わせ、ドライブ等の外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、管理ができない方がほとんどになってきている。買い物の希望がある場合には職員と一緒に掛付け購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を利用して頂き、相手にも理解と協力を得ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓があり沢山の採光があり明るい居心地を提供している。季節毎の飾り付け等で生活感を取り入れている。	居間は天井までの吹き抜けで、明るく開放感があり、調度品の整えとともに、落ちつける場となっている。事業所全体が利用者の安全と介護者の動きを考慮した造りになっており、温湿度や換気も適切で居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前を広くし集まりやすい空間となるようにしている。本人の気分に応じて共有空間を利用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある物を持って来て頂き、出来る限り自宅に近い雰囲気になるようにご家族様に協力頂いている。本人様の状況によりベット、ダンスの位置にも配慮している。	各居室には、トイレ・洗面台・クローゼットがあり、好みの家具を各家庭から持ち込み、家族写真や手芸作品等を飾り、心地よく過ごせるように配慮工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー構造とし、廊下、トイレ、浴室等には手すり、玄関にはスロープなど必要箇所に設置している。		